

手術を受けられる喫煙者の方へ

手術の準備は まず禁煙



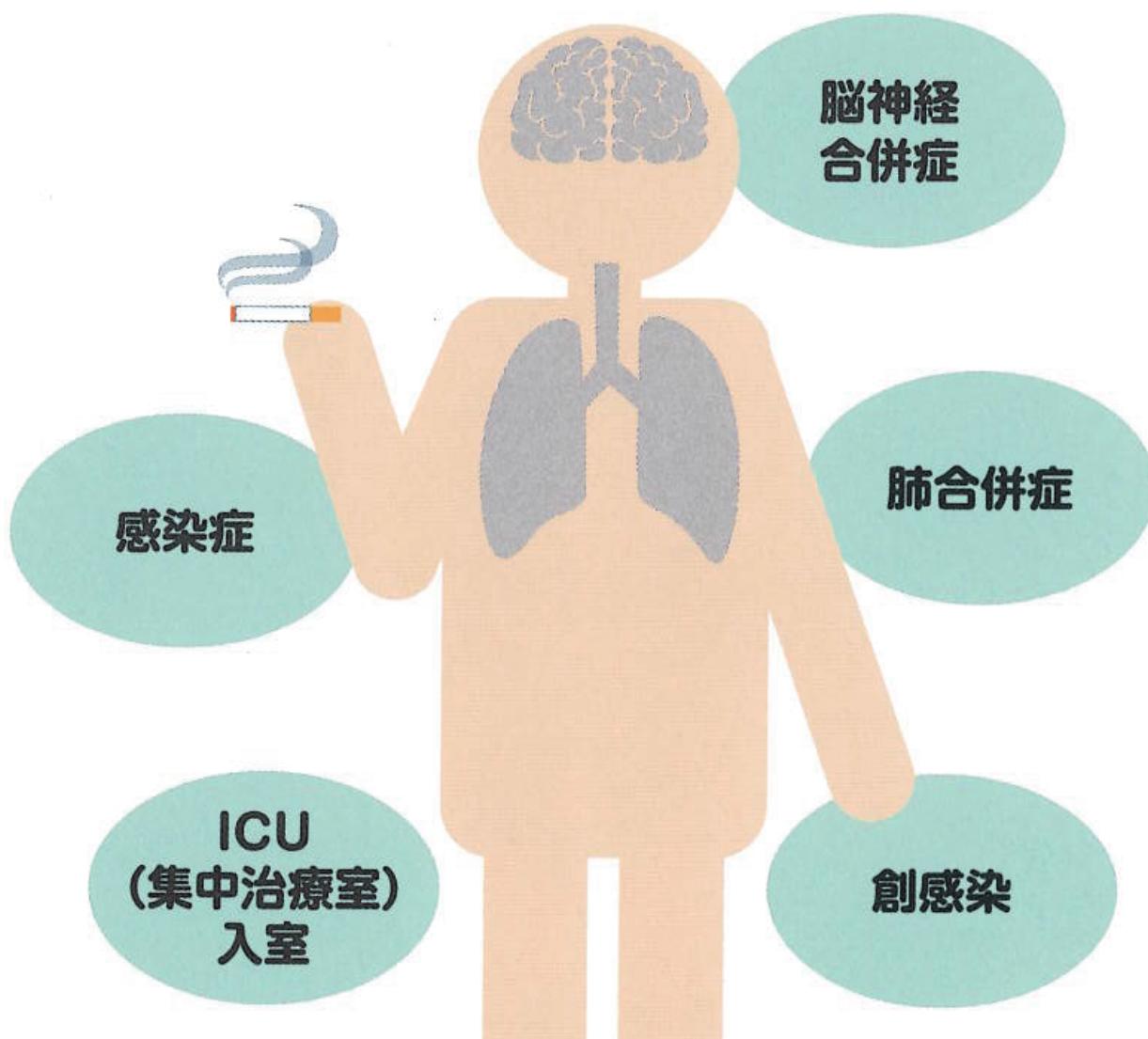
監修:岐阜大学大学院医学系研究科 麻酔・疼痛制御学 教授

飯田 宏樹 先生

手術の前に禁煙すると、 手術後の合併症の可能性が 低くなります

喫煙者は合併症のリスクが高く、そのため入院期間が延長する傾向があります。

喫煙者の手術後の合併症



手術を機会に禁煙して、 病気の再発や喫煙が原因の 病気の予防に努めましょう

退院後の喫煙は病気の再発の原因になり、治療効果を損ないます。
「もう大丈夫」などと過信せずに退院後も禁煙を続けることが重要です。

手術の後の長期にわたる禁煙は、
がん疾患・非がん疾患において生命予後を
改善するといわれています。

退院後の喫煙によるリスク

例えば、

肺がん手術後の患者さんでは、喫煙継続者は
いつの時点にやめた人よりもQOL（生活の質）が
低いと報告されています。

虚血性心疾患患者さんでは、冠動脈バイパス手術後に
喫煙を続けていた患者さんは死亡率が高く、
再狭窄に対する冠動脈インターベンションの必要性も
高いと報告されています。

ご自身だけで 禁煙に自信がない方は 禁煙外来にご相談ください

手術が決まても禁煙できない方はニコチン依存症の可能性があります。禁煙方法にはカウンセリングや禁煙補助薬を使う方法があります。お一人での禁煙に自信がない方は医師にご相談ください。

禁煙補助薬の種類と健康保険等の適用範囲

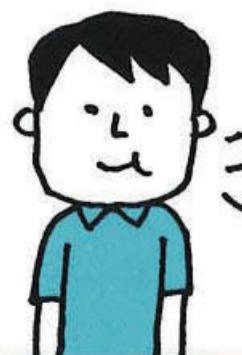
医師により処方され健康保険等の適用が可能なのは、ニコチンを含まない飲み薬と医療用のニコチンパッチです。



ニコチンを
含まない飲み薬
適用が可能



ニコチンパッチ
適用が可能※



ニコチンガム
適用されません

※ニコチンガムと一部のニコチンパッチは、薬局・薬店で購入する一般用医薬品であり、健康保険等は適用されません

日本循環器学会、日本肺癌学会、日本癌学会、日本呼吸器学会：
禁煙治療のための標準手順書 第6版：2014[L20140807011]より作図

禁煙治療が手術（入院）に重なった場合でも、
飲み薬による治療は継続できます。

手術が決まつたら 1日でも早い禁煙が重要です

禁煙期間は長ければ長いほど合併症のリスクを防ぎます。
しかし、手術前日であっても禁煙は遅くはありません。

禁煙の効果が出るまでの時間

- | | |
|----------------|----------------------------------|
| 20分 | ▶ 血圧や脈拍がタバコを吸う前に
近いレベルに戻る |
| 12~24時間 | ▶ 血中の一酸化炭素や
ニコチンの濃度が正常に戻る |
| 2~3日 | ▶ 血中の酸素濃度が正常に戻る
喉の調子がよくなる |
| 1~2週間 | ▶ 咳や痰が少なくなる |
| 2~3週間 | ▶ 心臓の機能が改善する |
| 3~4週間 | ▶ 傷口が治りやすくなる
感染症にかかりにくい |
| 4~8週間 | ▶ 肺の機能が改善する |
| 8~12週間 | ▶ 手術後の合併症率や死亡率が
非喫煙者と同じレベルに戻る |

お医者さんと禁煙をサポートするためのサイト「すぐ禁煙.jp」

sugu-kinen.jp

すぐ禁煙

検索

